

デジタル放送の動向と当社の取組

上杉 豪*
山口哲成**
村上篤道***

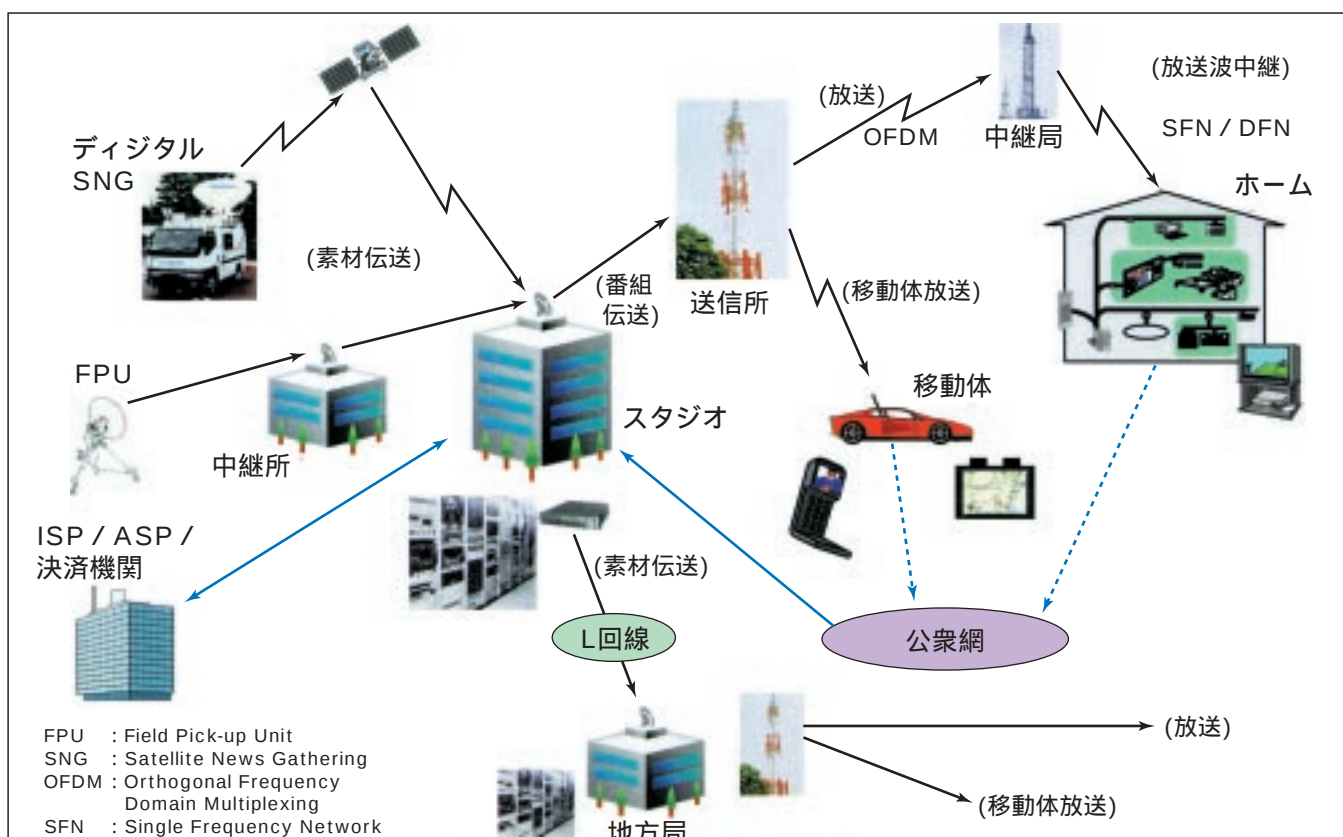
要 目

高精細(ディジタルハイビジョン)、多チャンネル、データ放送を特長とするディジタル放送が始まりつつある。BSディジタル放送は、実験放送段階を終え、9月からは試験放送に移行した。9月15日からのシドニーオリンピックでは、日本選手活躍の場面がハイビジョン映像として中継された。三菱電機は、ディジタル映像伝送の揺らん(籃)期から画像符号化技術の開発に注力し、世界をリードしてきた。その最先端の技術により、シドニーオリンピックのハイビジョン映像中継に寄与貢献した。

2003年から始まる地上デジタル放送に対しては、通信・放送機構の地上波デジタル放送実験施設の各種実験で技術蓄積をしてきた。その結果を反映し、業務管理システ

ム、送出系システム、送信系システムなどの送り出し側から家庭向けのデジタル放送用受信機や受像機等までの開発に取り組んできた。地上デジタル放送では、OFDM変調方式のSFNによる周波数有効利用の利点を生かすため、中継局の送信アンテナからの放送波が受信アンテナ側に回り込まない技術も開発した。

今後、デジタル化の進展により、ホームサーバでの記録・検索、インターネットとの連携による電子商取引、MPEG-4 利用データ放送、MPEG-7 利用検索・要約など様々な便利な機能やサービスが実現され、さらに、カーナビや携帯電話との組合せも出現するであろう。これらの製品とシステムの開発に積極的に取り組んでいく。



地上波デジタル放送システム

地上波デジタル放送システムにおける当社の事業化範ちゅう(囀)を示す。デジタルSNG・FPU・L回線による素材伝送システム、スタジオにおける送出システム、送信所・中継局で構成される送信系システム、家庭内及び移動体を対象とした受信機／受像機システム、さらには地上波デジタル放送システムをプラットフォームとする双方向サービスシステムである。